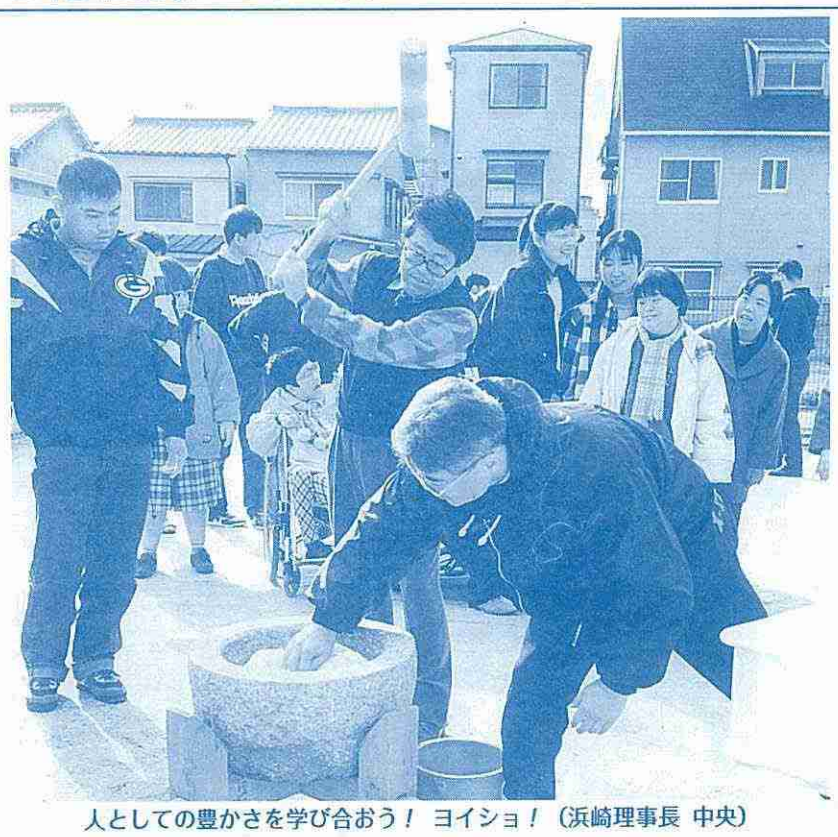
がんばろうや

もみじ福祉会ニュース

発行／社会福祉法人　もみじ福祉会
（第一もみじ作業所・第二もみじ作業所）

1998年1月
第15号

〒730 広島県広島市中区吉島西2－1－24
TEL (082)243－0331
FAX (082)243－0497



人としての豊かさを学び合おう！ ヨイショ！（浜崎理事長 中央）

法人化5周年を新たなる出発に

理事長　浜崎　勝

今年は、もみじ作業所が法人化五周年を迎えます。この五周年を「もみじ」の新たな節目となる意義ある年になるよう関係者一同で張り切っているところです。その実現のためには、この機会に改めてもみじ作業所の「過去・現在・未来」をみなさんと共に確かめ合うことが大切だと考えます。

「私の選択は間違ってなかった…」

一九九二年二月二十日、第五回ともだちコンサート（広島厚生年金会館）が、総数二千名に及ぶ参加者を集め、大成功のうちに終えて打ち上げ会が持たれた時のことでした。

「私の選択は間違ってなかった…」

一人ひとりが、コンサートの大成功と「法人化」の喜びや感動を熱く語り合う中の一言です。無認可のもみじ作業所開設当初から法人化までの十四年間の歳月の間、様々な壁や課題にぶつかりました。そして、作業所づくりの中心になってきた保護者たちでさえも、見通しのない不安感から何度か厳しい「選択」を迫られる場面があったのです。万感を込めた保護者のことばに、「もみじ作業所」への期待の大きさと責任の重さに胸を熱くさせられたものです。

もみじ作業所の取り組みは、多くの人たちに共感と支持を得てきました。それは障害を持つ仲間や保護者の、夢や願いの実現をめざすだけではなく、人間らしく生きるための根源的なものや「新たな価値」を創り出すための人間として共通した願いと重なった運動だったからだと思います。だからこそ、もみじ作業所づくりに多くの人たちからの支援が得られ、また、かかわる人たちに「もみじの仲間から逆に元気をもらう」と言わしめてきたのだと思います。

「わしらはすごいことをやってきたんじゃのう…」

もみじ作業所創設のテーマは、「どんな重い障害を持った人でも働ける場をつくろう」「障害の種別を超えて働ける場をつくろう」「障害者が主人公として働ける民主的な働く場をつくろう」でした。それは、「障害種類・程度別、篤志家による福祉行政主導型の福祉施設」などの既成の施設づくりの常識や価値観を大きく変革させる運動でした。それだけに厳しい道のりでしたが、多くの市民の支えと、もみじ作業所の地道な実績が、行政からも「広島県で初めての草の根運動によってできた福祉施設（作業所）」として高く評価されました。そして、約六千万円の自己資金を元手に、当時七億とも言われた市有地の無償貸与があり、市街地の吉島にもみじ作業所が誕生したのです。一九九三年四月のことです。

そして、そのエネルギーの象徴が「ともだちコンサート」でした。法人化実現まで、五回開催されたともだちコンサートは、障害を持ちながら働く仲間の想いを詩や歌にして表現する内容と共に、幅の広い、市民を巻き込んだ取り組みとして広島の文化活動としても高い評価を得てきました。

また、もみじ作業所の法人化実現への取り組みは、広島だけではなく全国の作業所づくりに希望を与えると同時に、今後の展開に大きな期待が寄せられました。そして、「わしらは、すごいことをやってきたんじゃのう」という自信と誇りに、仲間の顔が輝いていたように思います。

将来構想 スタート元年

うう～ おもい～

開設五周年を迎え、みなさんのご支援ご協力を得て運営面もどうにか軌道に乗りました。

そして、宿泊訓練事業を始めとする地道な取り組みが、将来構想検討委員会を中心とした構想の中に位置付けながら実施され、「無認可作業所建設」「共同ホーム」「作業重点型作業所」などが将来構想として具体的な形として提示される段階となりました。

ドスコイ！

しかし、法人化をめざした「無認可時代」のエネルギーが、失速しているのではないかと、もみじ作業所に自らの「夢」を重ねてこようとした人たちからの期待の声も耳にします。もみじ作業所の魅力やエネルギーの源とも言えた「新たな価値の創造」「外界に向けた新たな発信」をするはつらつとした活動やエネルギーが形として見えにくいからだと思います。

運営を安定させ、軌道に乗せるための基礎固めのための五年間でした。長い運動で、ほっとした気持ちがあったのも事実です。保護者の法人化以後の願いを十分に受け止め、束ね切れなかったこともあったと反省しています。

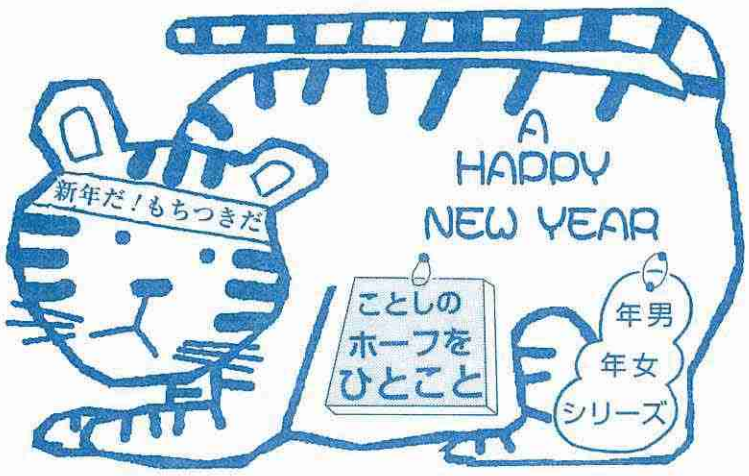
もみじ作業所の創立の理念・原点に返り、もみじの仲間の進路を生涯にわたって豊かなものとして保障していくことを確かめ合うことで、改めて新たなスタート台に立てたと実感しています。

「もみじの仲間」がよみがえる

四月二十六日の厚生年金会館の「ともだちコンサート」を中心とした、様々な五周年記念行事の取り組みが既に始まっています。もみじの仲間や保護者・職員は、法人化後の五年間で、何をどう学び、育ち合ってきたのかまた、何をめざそうとしているのかを、「発信」したいと張り切っています。実践の真価は、この五年間に仲間の夢や希望をどう育て、広げてきたかにつきると思います。そして、不充分だったことや課題は、「ともだちコンサート」をメインにした「五周年事業」への主体的取り組みと多くの人との出会いを通して克服できると確信しています。

世の中は、不景気で、信頼を裏切られるような暗いことの多い今日この頃ですが、もみじ作業所にかかわる人たちと共に人間として生きる希望や元気を「よみがえらす」取り組みとして、「記念事業」を成功させたいと考えます。

もみじ作業所の「宝」は、なんと言っても「人」です。人とのすばらしい出会いです。もみじ作業所にかかわることを通して人間としての豊かさを学び合うことです。みなさんのご協力とご支援をよろしくお願いします。



相良 真紀 さん

人見 修代 さん

ダンボールをがんばります。

浜本 理恵 さん

心も体もリラックスでいこう！

12年ぶりに私の年がやってきました。元気にがんばります。

井上佳代子 さん

仲間とともにシアワセになります。

のうひんにいきたい。

高田 昌直 君

取り組みを通じて 一歩一歩前進！ 自治会ひまわり会

12月18日 クリスマス会

みんなで盛り上げた 役員さんがんばった

自治会「ひまわり会」では、一年間かけて作った自治会の規約に基づきながら、今年度は毎月の会費の徴集をはじめ、備品をそろえたり、活動のメインともなっている行事では、花見、そして、今回のクリスマス会を行ってきました。

準備は役員が中心になりながら、各グループでもそれぞれ担当の係（ゲーム・カラオケ・うた・ディスコ・プレゼント交換）を受け持ち、ただのお客さんになるのではなく、自分たちが作っていく会なのだというすすめ方で、これまで過去三回取り組んできました。

今回は、役員も改選され、五人のうち三人は準備なども初体験ながら、これまでの積み重ねでクリスマス会自体のイメージは強く持っており、段取りも早くからはじめ（会場予約は九月半ばに！）予算作り、テンポの確認、役割分担、買物など、スムーズに、そして、意欲的にすすめてこれたのではないかと思います。

当日は、直接会場にこれる人達にも準備を手伝ってもらい、飾りつけ、テーブルセッティングを行い、終った頃には先頭グループが到着。みんな歩いてやってくるのですが、普段歩くのが苦手な人でもクリスマス会を楽しみにして、気持ちに張りをもってがんばってやってきます（帰りは……）。

今年は、企画の中に、白島小学校PTAグループのみなさんの御厚意によるミュージックベルの演奏が加わり、クリスマスらしいゆったりした雰囲気が味わえたのではないでしょうか。優しいベルの音色にあわせて、体をゆらす仲間の姿が印象的でした。

お楽しみのお弁当、ケーキ、おやつをいただきながら、プログラムは歌に踊りにカラオケ、ゲームと盛り上がり、あっという間にプレゼント交換。心ワクワクさせ、自分のプレゼントを確かめた後は、恒例となりましたボランティアさんへの感謝状贈呈式です。今年は、残念ながらボランティアさんの参加が少なかったのですが、それぞれのグループで心をこめて書いた感謝状が、ボランティアさんの心に届いたでしょうか。

クリスマス会に パン食い競争！ ゲーム係のみんなのこの発想がいいでしょ！

「来年はもっとこんな風にしたいヨ」「ここは何とかならんかね」と、終了後のアンケートには、早速、来年への期待が色々と寄せられていました。仲間の声を大切にしながら、ひまわり会の活動も一歩前進しつつあるようです。

ひまわり会ってどんなところ？

無認可のもみじ作業所時代に自治会を作り、役員会を中心に、楽しい行事や話し合いなど、色々な活動をしてきました。

法人認可し、吉島に移り、生活が落ち着いた頃、以前、自治会活動を中心に行っていた仲間より、「色んなことやりたいから、また自治会を作ろう」「自分達の生活は自分達で考えよう」という思いが出され、それに賛同した仲間数名で「自治会準備会」を結成。発足に向けての段取りや選挙管理委員会を作って、役員の選挙の段取りをしました。

そして、九三年に第一期自治会役員会誕生！ 自治会の名前も「ひまわり会」に決定しました。

九六年には規約委員会を作り、一年かけて規約作りを終了。規約にそって、九七年三月に選挙。現在の第二期役員会が誕生！

さらにその歩みはすすみ規約の中にある専門委員会（生活・広報・企画・販売

研修報告

11月16日 「二次障害を考える」

講師 山口 平八 先生

報告 その1

私は、現在、広島大学大学院医学系研究科保健学専攻に在籍し、成人脳[illegible]

午後と講義がなされ、午後の最後の一時間は、実際に仲間の方をモデルにし、デモンストレーションが行われました。

ドバイスがありました。

今回、研修会に参加して、成人期の障害者を支援していくには、様々な観点・分野からの関わり、幅広い知識、鋭敏な観察力が必要であると感じました。間接の拘縮、変形などの二次障害は難しい問題ですが、出来る限り長く仕事が続けられ、そして、豊かな生活が送れるよう、作業療法士としての立場から学び、そして支援していきたいと思います。

広島大学 大学院 井上 和博

また、作業所ということで、「労働」についても話があり、どんなに重い障害のある人も労働権はあり、

保障していくことは大切だが、その内容や取り組みは教育的・文化的・集団的に豊かでないといけないこと、また、発達的に考えると発達段階が九～十ケ月に満たない人の「労働」をどうとらえるか、どのような活動

を受けられたことも勉強になりました。

具体的な緊張の取り方、筋力のつけ方、特に、腹筋やおしりの筋肉をつけることが大切であることなどを、仲間の身体をさわって、個々の仲間に合わせたやり方を教えていただけたので、わかりやすく作業所の日常の中で少しでも取り入れていけたらいいなあと思いました。

二次障害というと「身体障害」の仲間だけをイメージしてしまいますが、そう

シリーズ 僕の夢・私の願い

～ 自分が暮らせるようなグループホームがほしい ～

森坂 美登志

僕のしゅみはボウリングやゲームをすることです。好きな食べものは、うどんやラーメンとかのめん類です。

今回は、作業所や将来のことで日頃感じていることや考えていることを、印刷グループの森坂君に聴いてみました。

＊作業所の好きなところはどこ?

「ここにきたら、友達がたくさんいて、話がたくさんできること。」

「クラブとかレクリエーションとかが楽しみ。作業所のみんなと旅行ができることも楽しみ。」

＊作業所の苦手なところはどこ?

「時間を守らないといけないところ。」

＊将来のことで一番気になることは?

「ガスや水道、料理……など、一人ではやっぱりできんけえ。」

「買物とかも、たとえば、何を作ろうと決めても、料理の材料がわからんけえ、何を買ったらいいかがわからん。」

「やっぱり誰かがおらんと、助けてくれる人がおらんと不安。」

＊一番の願いは?

「たとえば、誰かと一緒におったら好きなところにいける。旅行とか……一人ぐらしじゃ不安じゃけえ。」

「やっぱり友だちとか職員が一緒におってくれたらいい。」

＊美登志くんの希望を叶えるために、どんな準備や練習がいると思う?

「一人じゃけえ、布団を出したり入れたり、せんたくとか料理、買い物とか、今できんことをちょっとずつ練習することがいるかなあ。でも、すぐ忘れるけえのう。」

「自立訓練とかも、やってみたい。」

＊作業所やひかり協会への要望

「仕事のこと……もっと、コピーとか印刷機とかを入れてほしい。」

「将来のこと……自分が暮らせるようなグループホームがほしい。」

「部屋は大きいほうがいい。」

「部屋の壁は、マンガのようなアニメみたいな絵があればいいなあ。」

「写真立てや置物がおける棚がほしい。」

「散歩が大好きじゃけえ、朝や夕方はやっぱり散歩をしたい。」

「グループホーム、できたら、いっぺん経験したい。お母さんが生きとっても……ひかり協会で、料理とかは作ったことがある。保健婦さんが来て、身体にとってどれを食べたらいいか教えてくれたりする。勉強にはなるが、本当にはやってないけえの。」

「将来構想 第１期５カ年計画」第２次案を提示

みんなの夢を５カ年計画で

もみじ福祉会 将来構想検討委員会

もみじ福祉会・将来構想検討委員会では、昨年六月、将来構想第一期五カ年計画第一次案を、保護者会や労働組合をはじめとする関係機関・団体に提示し、積極的な討議をお願いしてきました。

もみじ福祉会将来構想検討委員会では、この間寄せられた懸念や意見を集約、再検討し、ここに第二次案を提示しました。

第二次案検討にあたっては、

①仲間一人ひとりの可能性を花開かせるために、個々人の障害の状況に見合った多様な施設を整備する。

②広島市域における障害者への対応の充実という、もみじ福祉会の社会的役割についても重視する。

③できるところから着手し、実績を積み上げ、可能性を切り開いていく。

④一つひとつの目標の達成が、何らかの形で関係者全体にとって利点になるように留意する。

という四点に注意を払いました。

本案は、九七年十二月～九八年一月にかけて、再度、関係団体の意見を聞き、三月の理事会で決定していく予定です。

将来構想 第１期５カ年計画（1998年～2002年）第２次案

（働く場づくり・日中の活動の場づくり）

一人ひとりの要求を大切にした実践を深めていくためには、多様な役割を持った施設体系の整備が必要であり、また、もみじ福祉会の更なる発展と在宅障害者の受け入れ枠の拡大につなげていくためには、以下の整備に取り組みます。

(1) 小規模作業所の開設
2000年度の開所をめざして、小規模作業所づくりに取り組みます。
これは、①在宅者・新卒者の受け入れ枠の確保、②適正な卒施設選択の場づくり、③制度にのらない先駆的な取り組みの場づくり、④高い作業工賃をめざす場づくり――などの趣旨で取り組むものです。
取り組みにあたっては、ニーズ調査を行いつつ、ニーズを持っている人たちと共に取り組みを進めていく必要があります。

(2) 作業重点型授産施設の整備
2001年から2002年にかけて、作業重点型授産施設の整備ができるよう、準備を進めます。
この取り組みは、自立生活を目標にできる人たちの働く場の充実を目指すものです。

(3) 福祉就労型授産施設の整備（充実）
現在の第一・第二もみじ作業所を「福祉就労型」に位置づけ、一層の充実を図ります。

(4) 生き甲斐重視型活動施設の整備
2002年度以降、生き甲斐重視型の通所施設の整備に取り組めるよう、準備を進めます。
この取り組みは、重度障害者の日中の活動の整備として取り組むものです。

※ 以上の取り組みを基礎に、①作業重点型授産施設、②福祉的就労型授産施設、③生き甲斐重視型の活動施設――からなる人それぞれに異なる障害の状況に対応できる施設体系の確立に取り組みます。

（生活の場づくり）

(1) グループホームの開設
当面、生活支援上緊急性の高い人、自立度の高い人を対象に、1998年度中にグループホーム第１号を開設します。
また、場所の確保については、もみじの家の活用、公営住宅の活用、吉島近辺の借地、土地購入なども含めて検討します。
そして、現在実施されている「緊急一時・レスパイト」事業もグループホームを拠点として拡充していきます。
2000年度中には、身障者ホームとの合築で第２号を開設できるよう、すぐに準備を始めます。

(2) 生活施設づくり
2002年度中に、生活施設づくりの整備計画が整うよう、準備を進めます。
この取り組みは、重度障害者の障害にわたる生活支援体制の整備を目指すものです。

(3) 生活支援事業を受託し、もみじ作業所の仲間たちや在宅障害者が地域で生活するための支援事業を行います。

（その他　啓発と貢献）

障害者問題や人権問題についての啓発と、紅葉福祉会の社会的貢献に取り組みます。
具体的には、地域に根ざした活動に留意しつつ、①福祉相談会、②福祉講座やボランティア口座の開催、③ともだちコンサートなどの開催、④仲間の仕事興しにつながる事業活動、その他の活動を、後援会の力も借りつつ、進めていきます。

ミュージックベル
by 白島小ＰＴＡの
みなさん

「美しい音色 ありがとう！」
役員から もみじオリジナル
クリスマスギフトセットを
お礼を込めてプレゼント

（生活支援委員会）が七月に立ち上がり、朝の会の進行や新聞づくりなど、様々な活動が活発に行われています。

報告 その2

去年の六月より、もみじ作業所に週一回、ボランティアとして参加しています。今回、もみじ作業所主催の研修会に参加しましたので、研修内容ならびに感想を述べたいと思います。

講師は山口平八先生、テーマは『障害者と発達保障―二次障害を考える―』でした。午前・

講義では、「障害の軽減、克服をめざして」と題して、まず、リハビリテーションの発展過程、障害の三要素についてなど、基本的な内容が述べられ、次に、子どもの正常発達について、各発達段階と障害児（者）の発達段階とを対比させながら、わかりやすく説明がなされました。

午後のデモンストレーションでは、二名の仲間の方を実際に先生が訓練をされ、身体機能についての説明、具体的な訓練の目的や内容についてのア

発達保障の考え方が一貫してつらぬかれていた講演であり、また、山口先生自身が京都の与謝野海養護学校の実践経験なども豊富で、具体的な例を出しながら話をして下さったので、わかりやすく、胸に響く講演でした。

二次障害についても、「身体面」「発達的な面」「生活習慣・労働習慣」の面からおさえて下さり、作業所の中で、仲間たちの健康を守り、豊かな生活を保障するための取り組みをどのようにすすめていったらいいか、考える視点をたくさん投げかけて下さいました。

講演の最後の方では、二名の仲間がモデルとして選ばれて、実際に先生に診ていただいたのと、講演終了後に、再度、六名の仲間の身体に実際にさわっていただき、具体的にアドバイス

ではなく（六名の仲間のうち、二名は知的障害の仲間も診ていただいた）、どの仲間にとっても「身体づくり」は大切な課題であり、よけいな緊張がない、筋力がついた身体をつくることが、心の発達にとっても大きな影響があることがわかりました。

学んだことを作業所の中でどう生かしていけるか……これからが大切だと思いました。

もみじ作業所 職員
古城門 淳子

行事日誌

１２月

1日　市立養護学校 見学 来所
2日　ダンボールグループ
　　マツダ パーツセンター を見学
3日　安佐南福祉事務所 定期調査
　　医療福祉学院 見学 実習 来所
　　理事会 将来構想検討委員会
4日　市立養護学校 手芸グループ 来所 交流
6日　保護者会 忘年会
9日　共作連 広島県支部がんばるデイ
　　署名行動参加
9日　生活自立訓練
　　（～11日 第４回・Ｂグループ）
15日　もみじ福祉会 第23回理事会
　　ベトナムより官僚視察
17日　保護者会 例会
18日　自治会：クリスマス・忘年会
22日　後援会 役員・職員合同忘年会
25日　仲間・職員 大掃除、納会
26日　大掃除　職員 忘年会・歓送迎会

１月

5日　新年互礼会・大もちつき大会
　　第６回 ともだちコンサート 各係会
9日　クラブ活動
12日　家庭裁判所 調査官 来所 相談
12日　生活自立訓練
　　（～14日 第４回・Ｃグループ）
20日　広島大学 医学部 見学 来所
21日　保護者会 例会
27日　吉島小学校 ６年 見学 来所（・28日）
28日　生活自立訓練
　　（～30日 第５回・Ａグループ）

「第6回ともだちコンサート」

厚生年金会館にて

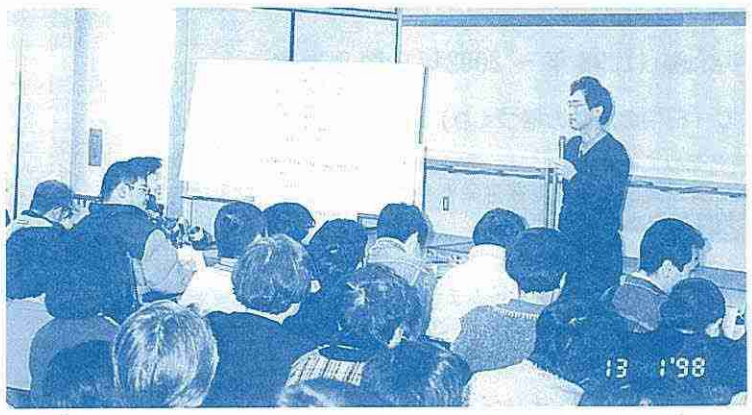
1998年4月26日（日）　13：30～

歌の練習スタート

もみじ福祉会設立五周年記念事業の一つ、「第六回ともだちコンサート」の開催まであと三カ月を切り、一月十三日には、第一回の練習が行われました。

久々の歌の練習ということでワクワクしている仲間、保護者、後援会の方、職員が、おなじみ音楽センターの新江さんの指導で「ともだち」「がんばろうや」などの曲を練習しました。二月に入ってからは、続々と新曲が発表され、どんどん盛り上がってきています。

「曲がたくさんあってうれしいけど、覚えるのは大変そうだなぁ」という声もちらほら。そこで、歌をしっかり覚えるためには、まず練習ということで、本番に向けて、毎週月曜と木曜の夜に行っています。仲間たちと一緒に歌を楽しんでみませんか？



1月13日に行われた初練習の様子。みんな、とっても真剣です。

みんなの思い　歌にのせて

今回の「第六回ともだちコンサート」は、三部構成で、法人化五年間のもみじ作業所の紹介、仲間の夢や願い、保護者の願いなどをもとにまとめた、将来構想の取り組みを訴えたいと考えています。

《第1部》
通所者と協力サークルによる演奏やコーラス

《第2部》
みんなで歌おう
～シングアウト～

《第3部》
合唱構成

その中でも、第三部で歌う歌は、仲間や保護者の思いを詩にしたものに曲をつけたものです。みんなの思いが歌にのって伝わっていくような、そんなコンサートにしたいと思っています。

皆さんのご協力、ご参加を心よりお待ちしています。

詳しくは、もみじ作業所内「第六回ともだちコンサート実行委員会」まで、お問い合わせください。

第6回ともコンに向けて

伊世　伸一

僕は自治会「ひまわり会」の会長で、今回ともコンの実行委員でもあります。ともだちコンサートに参加するのは初めてですが、以前に第五回のともコンを観たとき、すごくみんなが力を合わせてがんばって歌っていた姿が印象的で、一緒に舞台に立てたらいいなぁとずっと思っていました。今回は実行委員会のメンバーでもありますが、いろんな団体の人が実行委員会に参加してくれて、一緒に力を合わせてともコンを盛り上げていけたらいいなあと思います。仲間、親、職員も一緒になって、もっとチームワークを大切にしながらがんばっていければと思います。

とにかく厚生年金をいっぱいにして、みんなで成功させること、もっと夢に向かっていくきっかけになればいいなぁと思っています。

僕は、もっと一人一人が意識しあって、一体感あってこそもみじ作業所だと思うので、その気持ちを忘れずにがんばっていきたいと思います。

後援会コーナー

旧　育てる会の皆さん　入会ありがとうございます

去る十一月末、もみじ作業所法人化とともに一旦解散した「もみじ作業所を育てる会」の皆さんに、突然ではありましたが、「もみじ福祉後援会への入会のお願い」を送りました。

何しろ、五年以上前の住所録で郵送しましたので、住所移転などで届かなかった人も相当でした。それでも、一月初め現在で約四十名の方々がご入会下さり、中には暖かいお手紙や励ましの言葉を添えていただき、事務局は感激、ありがたい気持ちでいっぱいになりました。有難うございました。

お茶・コーヒーの販売にご協力を

月一回定例の後援会幹事会では、事業の一つである販売事業について、保護者や職員の間でもおいしいと好評の「静岡直送のお茶」や「G線のコーヒー」の販売を、大いに進めていこうと話し合っています。

ぜひ一度、会社や団体、会合、ご家庭で使っていただきたいと思っています。数が少しまとまればお届けします（作業所近くの方には、単品でも結構です）。

よろしくお願いします。

ともだちコンサート始まりました

みんなの力を合わせて作り上げる「第六回ともだちコンサート」の準備が始まりました。開催は四月二十六日(日)、厚生年金会館です。

「ともコン」は、当日のステージはもちろんですが、企画や合唱練習、ボランティア集めと交流などなど、みんなで作り上げる過程がまた楽しい。

合唱隊員として、厚生年金会館の舞台で思いっきり歌いたい、ボランティアとして応援したいなどなど、ともに「ともコン」を作っていこうという方、連絡を待っています。

もみじ福祉会後援会にご入会下さい

＊年会費は、個人　2,000円
　　団体　5,000円（一口）です

＊ご連絡頂ければ、資料など送付致します

ご寄付ありがとうございました（11月～12月）

みどり作業所	様
もみじ福祉会後援会	様
影山	様
石井君子	様
広島YMCA	様
吉島女性会	様
SDAキリスト協会	様

＃お知らせ＃

寄付をされた個人・法人においては、確定申告によって、所得税の寄付金控除、あるいは法人税の損金算入ができます。

寄付金より所定の領収書をお受け取り下さい。

詳しくは、お問い合わせを。

輝け！New Face

＜中西　力仁さん＞

みなさん、はじめまして。中西力仁です。福山市出身で二十五歳です。神戸の大学を卒業後、企業で働いた後、福祉の専門学校で社会福祉を学びました。

まだまだ経験も浅く、未熟ですが、初心を忘れず、いつも新鮮な気持ちで前向きに頑張りたいと思っています。

みなさん、どうぞよろしくお願い致します。

趣味	スポーツは、自分でするのも観戦するのも好きです。
宝物	いろいろな人との出会い。
苦手なもの	ミッション車。
夢	将来、パリに住むこと。

もみじ福祉会５周年　記念講演

～ゆたか福祉会の実践や「福祉村構想」から学ぶ～

人としてゆたかに生きる

講師　ゆたか福祉会・福祉村建設委員会
小邑（こむら）　嘉恵子（かえこ）さん

日　　時　3月8日（日）　13：30～16：00
会　　場　広島市立養護学校（広島市中区大手町4丁目4－4）
　　TEL（082）245－0304
チケット代　300円

ゆたか福祉会では２８年間の歴史を土台に新しい施設作り～障害を持った人達が安心して生涯をおくれる新しい生活施設～「設楽キラリンとーぷ」福祉村建設が進められています。

この計画は、どんなに重い障害が持っていても一人の人間として大切にされ、生き生きと暮らせる場をつくろうとするもので、「キラリンとーぷ」の名称もキラリ笑顔がいっぱいという意味でつけられています。

福祉と町おこし・村おこしが合体した「福祉村構想」、ゆたか福祉会の歴史とともに学んで、広島の福祉の向上や作業所運動に生かしてみませんか。

編集後記

広島市が打ち出した〝行財政改革大綱〟には、〝広島市児童療育指導センター〟制度への取得制限の導入が含まれています。

これらの事に、これからの広島市の福祉への向かい風を感じながら、今、私たちは、もみじ福祉会設立五周年記念事業（記念講演の開催、小記念誌の刊行、〝第六回ともだちコンサート〟の開催）の準備に取り組んでいるところです。

ここで生まれる新たな出会いとつながりを広島の福祉前進の力にしていきたいと思いつつ！

（久保　正道）